

■コメント

1. A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

定点当り3.38人とほぼ横ばいとなっており、例年同時期と比べて多い状態が続いています。佐伯区7.0人、安芸区6.5人、安佐北区4.7人、東区4.0人と特に多く、南区、西区ともに2.3人となっています。

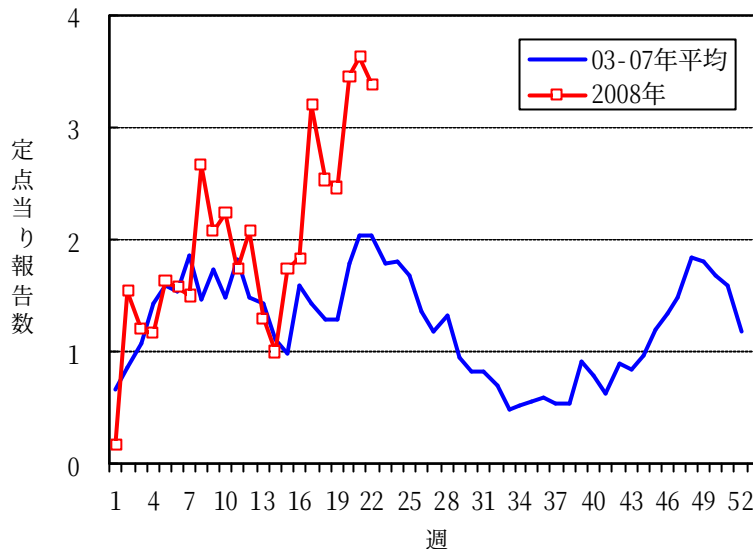
2. 百日咳

13人(定点当り0.54人)報告されており、例年同時期と比べてかなり多い状態が続いています。患者の年齢層別内訳は、20歳以上が6人、10～19歳が2人、0～9歳が5人となっています。

3. 手足口病

定点当り1.63人と増加しています。安芸区では12.0人と特に多くなっています。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎



■5類感染症報告状況(定点把握対象分)

疾患名	報告数	定点当り	平均過去5年(注1)間	発生記号	疾患名	報告数	定点当り	平均過去5年(注1)間	発生記号
インフルエンザ(注2)	1	0.03	0.23		ヘルパンギーナ	7	0.29	0.71	
咽頭結膜熱	8	0.33	0.55		流行性耳下腺炎	1	0.04	1.35	
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	81	3.38	2.04	⇒	RSウイルス感染症	-	-	-	
感染性胃腸炎	162	6.75	6.27	⇒	急性出血性結膜炎	-	-	0.03	
水痘	56	2.33	2.55	⇒	流行性角結膜炎	6	0.75	0.98	
手足口病	39	1.63	2.08	⇒	細菌性髄膜炎	1	0.14	-	
伝染性紅斑	10	0.42	0.52	⇒	無菌性髄膜炎	1	0.14	0.23	
突発性発しん	24	1.00	0.90		マイコプラズマ肺炎	2	0.29	0.40	
百日咳	13	0.54	0.01		クラミジア肺炎(注3)	-	-	-	

急増減	↑	↓	前週と比較しておおむね1.2以上の増減
増減	↗	↘	前週と比較しておおむね1.15～2の増減
微増減	↖	↙	前週と比較しておおむね1.1～1.5の増減
横ばい	→	←	ほとんど増減なし

報告数が少ないなど、傾向の判断が不適切と思われるものについては、発生記号を記載していません。

インフルエンザ定点数(小児科定点を含む)	37
小児科定点数	24
眼科定点数	8
基幹定点数	7

(注1) 過去5年間(RSウイルス感染症は4年間の同時期平均(定点当り))

(注2) 鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く

(注3) オウム病を除く

■1類～5類感染症報告状況(全数把握対象分)

類型	疾患名	報告数	累積	備考
2	結核	5	80	女性 20歳代)・1人、男性 50歳代)・2人、男性 80歳代)・1人、女性 90歳代)・1人
3	腸管出血性大腸菌感染症	2	3	女性 10歳未満)・O157、女性 40歳代)・O157
5	急性脳炎	1	2	女性 10歳代)
5	風しん	1	4	女性 20歳代)・推定感染地域:国外

5類感染症報告状況の推移 定点把握対象分)

		インフル エンザ (注1)	咽頭結 膜熱	A群溶 血性レ ンサ 球菌咽 頭炎	感染性 胃腸炎	水痘	手足口 病	伝染性 紅斑	突発性 発しん	百日咳	ヘルパ ンギー ナ	流行性 耳下腺 炎	R S ウイル ス感 染症	急性出 血性結 膜炎	流行性 角結膜 炎	細菌性 髄膜炎	無菌性 髄膜炎	マイコ プラズ マ肺 炎	クラミ ジア肺 炎 (注2)
報告数	広島市	第18週	23	23	61	151	52	15	7	18	10	1	1	-	5	1	-	6	-
		第19週	4	20	59	113	48	23	5	9	16	-	2	1	4	-	-	5	-
		第20週	4	10	83	154	41	35	11	21	16	3	-	2	3	-	-	3	-
		第21週	1	11	87	170	67	20	15	22	14	9	3	1	6	-	1	4	-
		第22週	1	8	81	162	56	39	10	24	13	7	1	-	6	1	1	2	-
定点 当り	広島市	第18週	0.62	0.96	2.54	6.29	2.17	0.63	0.29	0.75	0.42	0.04	0.04	-	0.63	0.14	-	0.86	-
		第19週	0.11	0.83	2.46	4.71	2.00	0.96	0.21	0.38	0.67	-	0.08	0.04	0.50	-	-	0.71	-
		第20週	0.11	0.42	3.46	6.42	1.71	1.46	0.46	0.88	0.67	0.13	-	0.08	0.38	-	-	0.43	-
		第21週	0.03	0.46	3.63	7.08	2.79	0.83	0.63	0.92	0.58	0.38	0.13	0.04	0.75	-	0.14	0.57	-
		第22週	0.03	0.33	3.38	6.75	2.33	1.63	0.42	1.00	0.54	0.29	0.04	-	0.75	0.14	0.14	0.29	-
	全国	第20週	0.20	0.47	2.85	6.79	2.07	0.49	0.15	0.68	0.11	0.25	0.43	0.05	0.02	0.81	0.02	0.35	0.02
		第21週	0.21	0.58	3.02	7.02	1.89	0.70	0.20	0.72	0.11	0.37	0.43	0.05	0.04	0.79	0.02	0.39	0.03

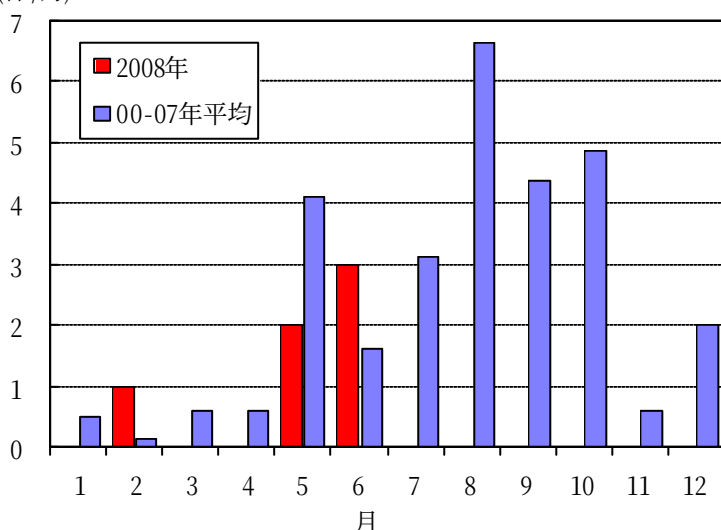
注1)鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く 注2)オウム病を除く

新たに判明した病原体検査結果

診断名	患者 年齢	性別	発症 年月日	検査材料	検出病原体
インフルエンザ	3	男	2008/04/13	咽頭拭い液	インフルエンザA(H3)型
咽頭結膜熱	1	女	2008/04/22	咽頭拭い液 糞便	アデノウイルス3型
感染性胃腸炎	4	女	2008/04/09	糞便	ノロウイルスG2群
流行性耳下腺炎	14	男	2008/04/16	鼻汁(拭い液)	アデノウイルス2型
腸重積症	1	男	2008/04/21	糞便	アデノウイルス1型
肺炎	3	女	2008/04/20	咽頭拭い液	ヒトメタニューモウイルス
肺炎	1	女	2008/04/30	鼻汁(拭い液)	ヒトメタニューモウイルス
喘息様気管支炎	0	男	2008/04/25	咽頭拭い液	ヒトメタニューモウイルス

参考)広島市における腸管出血性大腸菌感染症の月別報告数

(件/月)



大腸菌O157など、ベロ毒素を産生する大腸菌によって引き起こされる感染症で、症状のないものから、腹痛や下痢を伴うもの、血便を伴うもの、さらには重症化して溶血性尿毒症症候群 (Hemolytic Uremic Syndrome, HUS) を発症するものなど症状は様々です。

例年、気温が高い5月から10月ごろにかけて多発する傾向にあります。

今年は、2月に1件報告された後、報告はありませんでしたが、5月29日(第22週)から6月3日(第23週)にかけて5件報告されました。

腸管出血性大腸菌は、熱には弱いですが、感染力が強く、わずか数十個でも感染すると考えられていますので、手洗いの励行に心がけるとともに、生肉などの食品の取扱いには十分注意する必要があります。

本週報は、速報性を重視していますので、今後調査などの結果に応じて若干の変更が生じることがあります。なお、感染症情報の詳細についてはホームページでご覧いただけます。

URL <http://www.city.hiroshima.jp/shakai/eiken/center.html>

【問い合わせ先】

広島市感染症情報センター/広島市衛生研究所 〒733-8650 広島市西区商工センター四丁目1番2号
TEL(082)277-6575 FAX(082)277-5666 E-Mail ei-seikatsu@city.hiroshima.jp

2008年第22週 6月26日～6月1日)